第５回　栗原市総合計画審議会　会議録

日時：令和８年８月２０日（木）
午後１時３０分～午後３時３０分
場所：市役所２階２０５・２０６会議室

１　開会

２　挨拶　栗原市総合計画審議会 会長

資料の配布が本日となり熟読は困難だが、闊達な意見をいただきたい。

８月４日に宮城県庁で宮城大学の学長と村井県知事が合同で記者発表を行い、大学改革が報道された。令和１０年度から既存の学群を改良し新たな教育研究を行う学群・カリキュラムをつくり、今の高校２年生が進学を想定する時期にスタートする、大学全体としての新たな取組である。

県教育委員会とも綿密な協議を重ね、高校生の将来に接続できる教育研究機関としてどうあるべきかを検討した。栗原市にも４つの高校があるが、若い人が減っている。単に人口減少ということではなく、「減るから寂しい」で終わらせず、地域と接続できる人物に育成できるかが課題である。高校を出た後の高卒就職や、進路としての教育研究機関を通じて社会に接続できるか、その時間を考えることに汗をかく。

入学試験で上からスコアで選ぶだけでなく、事前にやりとりをしながらその場面を作っていく。宮城大学は年間６０人しか受け入れられないが、少数であることに甘えることなく、地域産業や行政が若い人を引き受ける状態にすることが大事である。県内の県立大学はひとつであり、県内外の教育機関と連携してやっていきたい。まずは宮城大学が令和１０年度に手を挙げる。

大きな絵を描きながらやっていくが、総合計画はグランドピクチャーであり、遠ざけるのではなく、これに則って展開していくものである。それが助けになるよう、個々の活動に皆様が関与できるような場としてこの会議を取りまとめていきたい。大学でできること、行政のこうした会議でできることはそれぞれ役割があるので、積極的にお力添えをいただきたい。

３　報告事項

（１）第３次栗原市総合計画基本構想（案）について（資料１、資料２）

※資料１を用いて、項目を区切って説明。

［計画策定の指針（(１）計画策定の意義／（２）計画の位置づけ)］
（議長）
　資料２ページの④「特色ある栗原市の取り組み」に変更されたことについて、人口減少は栗原市に限らず先進国の特に地方では顕在的なことであり、それにどのように向き合うかがそれぞれの地方において重要な課題であり、それが個性になっていくことは明らかである。
　この文章はまだ前段の全体的な概念の話かもしれないが、それに対して栗原市がどうアクションをするのかという起点となる。
　特に人口流出対策、子育て支援策をしっかりと訴えた上で、抽象概念ではなく具体的な方法に話を展開できる文言になっていることを感じたので、一つのきっかけとしては望ましいのではないか。

［序論①策定趣旨、②計画の構成と期間］
（議長）
　資料３ページの３つの視点（①②③）については、初見では抽象的な印象を受けるかもしれないが、それを具体化していく、解像度を上げていくという作業にどのように関わっていくかによって、その３つのテーマがより重要な行動規範に発展しうる項目である。
　そこを掘り下げていくそれぞれの立場での行動が伴っていけば、こういった３つのプログラムについて確認しておくことの重要性が感じられる。
　第２次のものを読むと一文でそれが示されているため、そこから行動規範を読み出しにくいところがあったが、今回はしっかりと行動規範につながる項目があり、これが３つでよいかという議論はあるかもしれないが、そこからほぐしていく中でそれぞれについて各論を実装していくことができる仕組みが見えてきていることは、非常に興味深い項目だと思って読ませていただいた。

（議長）
　資料４ページの図に書いてある毎年度ローリングで見直しを図っていくこと、そこがしっかりと形になって分かりやすく示されたことは良かった。こうした中期計画・長期計画は、従来の行政の中では「立てると、書いてあるからやる、書いていないからやれない」ということが免罪符になることが多かった。もちろん第２次の時からきちんと見直しをしましょうと謳っているところだが、それをより流動的・活性化させていく形のアクティブプランを含めるということが、この資料の中で読み取れるようになったことは非常によろしい。

一方で、そのアクティブプランを実際にやっていく現場の様々な活動に対するサポートや理解は必要であり、その点については市民にも、また行政の中での様々なチェックを通じて、実行力・実装力を高めていくことに鋭意努力をしていただくことが重要である。その構えが第２次に比べると少し輪郭がはっきりしたような印象を受けた。

［人口の将来予測（人口ビジョン・年齢構成）］
（議長）
人口の動向を図化してこのページを見ると、「そうかとは思っていたけれど、そうだった」という現実が突きつけられると思う。この状態が前提であるということを踏まえながらも、どうやって地域社会が健全に豊かになるかを考えていくための基本的なグランドピクチャーと思って、今後の議論に入っていくので、その点をご理解いただきたい。

（委員）
資料５ページの最初の方に総人口の推移の説明があり、当初の予定よりもブレーキがかかっている、いい意味で減少にブレーキがかかっているということだったが、要因は何か。例えば寿命が延びて亡くなる方が減っている割合が大きいのか、転居してくる方が多いのか、出生人口が想定より大きいのか、そこまでもう一歩踏み込んで分析してみることは可能か。

（事務局）
資料５ページの人口の将来予測について、推計値を実績値が８９９人上回った要因を分析した。内容は、国の社人研推計で行った場合の令和７年の人口が５万８，５７７人に対して、住民基本台帳人口が５万９，４７６人になったというところである。

その主な要因については、栗原市のみならず人口減少は避けられない部分であるが、その中でも減る割合が緩やかになった。それが移住定住してくる方が多くなったのか、正直、生まれる子どもの件数は毎年２００人ほどだったところ、その２００人を切るような状況になっているのが現状であるため、出生数が増えたからとはなかなか言えない。当初見込まれていた人口減少より緩やかになった要因としては、市の各種政策が影響したものという分析をしている。

（委員）
できるだけ何が響いていたのかを紐解いて見ていければ、これから多

くの施策が出てくる中で、全部実現したら素晴らしいが、財源等の関係で優先順位が出てきてしまうと思うことから、その段階を見たときに、このデータはもう少し深掘りして分析してみてもかなり面白いし、これから何を優先して行っていくかにつながるからよいと思った次第である。

（議長）

従前の予測的な減少数に比べて、現実にはその予測数を上回る実績値となったことを根拠にして、減少の傾向が当初よりも少し緩やかだったという事実があったということである。

とはいえ、減っていることに変わりはないので、予測を上回ったことに要因があるなら、そこをきちんと手当てしていくと挽回の可能性があるかもしれない。あるいは、減ることには変わりがないので、これを食い止めるためにできることがどこにあるのかを分析的に見るということは、この数字を上げたことにおいて可能性のある話題である。

一方で事実上減ることに変わりがないのはやむを得ないが、兆しの中から食い止めるような一手を打てるところがあるならば、それを行政としてきちんと施策にしていくことを計画の中で捉えていきましょうという文言化だと理解できれば、単に予測しなかったことが起きましたという事実の説明ではなく、方針として計画にあり得る話になる。その辺の文章化は丁寧にお願いしたい。

（委員）

人口の部分についてだが、今の話でいくと、過去の話が載っていない。過去と実績のギャップがあって「こうしていく」と書くはずが、スナップショットが未来の話しか書いていない。であれば、グラフの中に第２次の前期・後期の計画と、いざ実際どうだったのかを書けないのか。例えばそれで少しでも上がっているとか、何かの施策の効果かもしれないと読み取れると思うが、これだと結果しかなくて読み取れない。

もう一つ、これは少し難しいが、市民の皆さんに危機を認識してもらうべきなのか。「人口減少している」と言っても、実際に数字を出すと初めて分かる。しかし出さないと何も分からない。あえて厳しい数字を出すべきなのか、出さずに今から将来のスナップショットでやるのか、どちらなのか。

（議長）

資料６ページの２００５年の８０，２４８人という数字は事実であっ

た。次の年次も事実であった。これはプロットしていくことによって棒グラフができている。２０２５年のところの５９，２４９人も事実であり、それ以前の過去の部分は事実のプロットである点は間違いない。質問の趣旨は、例えば２００５年の時に予測したより減少率がもっと下を走っていて、それよりは良かったのではないかということを、こういう棒グラフの中に記述することによって、この計画書の中で市民の方々の理解を深める情報になり得るかということだと思う。

　その辺は、これまでそういうものを私自身見たことがないので、どういう効果を生むかは分かりかねる。一つは、こうした計画上、現実だけはきちんと間違えないということ、また当初の楽観的あるいは悲観的な予想を同時に書いたことによって何が伝わるかが読めないので、その辺は適切な事例等を踏まえてどう掲載するかについて事務局で市民からの意見も含めて検討していただき、その結果についてはこの委員会の中でご報告いただきたい。

（事務局）

　会長がお話しされたとおりであるが、事務局でそういった分析をして必要だということであれば、このページに同じように掲載するのは正直難しい感触を受けているので、掲載が必要だという判断のときには、例えば資料編という形で後段のページで整理していきたい。

［SDGs との関係／新型コロナウイルス感染症への対応］

（議長）

　資料７ページの赤文字の追加部分については、第２次の中でも少し補足的に必要だと思われる文言の追加という形であり、特に栗原という地域性に特化した文言を添えることによって、いわゆるグローバルスタンダードというものの取り組み方をもっと身近に引き寄せるためのトリガー（きっかけ）になるような計画の作文と受け止めた。

　実際に SDGs を栗原市という身近な話題に引き取ったときに、どういう具体的なことがあるのかはこの章立ての中では語られないが、こういった文言を挿入することで、栗原市の総合計画としての位置づけがグローバルスタンダードとどのような関係があるのかを捉える上での作文としては理解を示せる。

　資料８ページのチャートについては、ある時期、様々な組織が様々なレベルでSDGsをどう取り扱うかを苦労して検討したときの方法として、こういう星をつける取り組みがあったことは事実であり、SDGs という、ある意味よそから来た概念を身の回りのことに落とし込もうとする努

力の一つの方法論としてはあった。

一方で、SDGs についてもう少し時間が経つことによって、穴埋め・星取りをすれば実現できるかどうかというレベルではない、複合的・立体的な取り組みであることが多くの方に理解が浸透していく中で、星取り表で実践するのではない方法で地域の中できちんとやり取りしていこうという機運が醸成されてきたことも事実である。その点、こういった表を穴埋めすること自体を目標にしないというのは、行政としての構えとしては健全かなと思って読ませていただいた。

資料９ページの感染症の問題については、当時は非常に深刻な話題だったので、行政としても当然計画の中で取り上げるべきであったし、取り上げることで、本来であれば市民の方々にこの構えを周知徹底した上で、それを前提に規範となる行動をとっていきましょうということだったと思う。この感染症自体が消滅したわけではなく、様々なレベルで感染症自体は世界中で起きているので、そのことは忘れず、一方で当時のコロナ禍を個別事案としてフィーチャーするのではない形で、もっと全般として普遍的な感染症に関する市民の取り組み方・考え方をきちんと醸成していく必要はあると思うが、その点、ここで項目立てをすることによらずに、市として取り組みを実践していこうということでのページの削除だと思っている。

一方で、感染症、自然災害など、身の回りに迫ってくる予期しない様々な事案のリスクは大変高まっていると思うので、その点、今後計画の中でどのようにそれを文言化するのか、姿勢として捉えていくのかということは重要なことである。必要があれば委員の皆さんからのご意見もいただきながら、きちんと形として刻印できるような方法をとることが重要かと思っている。

［2 基本構想 ①基本理念］

（議長）

資料 13 ページの「市民がつくる 暮らしたい栗原」の下に「あふれる笑顔 つなげる未来」という文言が追加されたということだが、この言葉の出どころはどこか。

（事務局）

こちらについては、第３次総合計画が第２次を引き継ぐことから、未来に向けた希望と挑戦の思いを込めたいと思い、この部分を追記している。市長から「夢と希望と笑顔に満ちた計画にしたい」という発言もあり、この文言を事務局の方で整理したという状況である。

（議長）

私がこれを申し上げたのは、こうした話題が共有される場面において、これがなぜ浮き上がってきて、それが検討されるに至ったのかが、多くの方に「なんとなくそうか」と思っていただけるようなレベルに突き上げていただかないと、言葉というのは勝手なことになってしまうためである。

本日の説明では、事務局が様々な意見交換や市長の基本指針も含めて、「あふれる笑顔　つなげる未来」という副題的なスローガンを前回の総合計画のスローガンに加筆して掲げ、総合計画そのものの認知や理解の促進につながる状況を生み出したいという意向だと受け取った。

言葉遣いにこだわるわけではないが、委員の皆様には、こういう副題的なことを含めたスローガンを計画の中できちんと取り上げていくことに共感していただくことが大事だと思ったので、その材料としてこれがどこから出てきたのかを確認させていただいた。「そうではない」というご意見もあるかもしれないが、まずはこの言葉遣いで総合計画の中で掲げてみようではないかということでご承知いただけるなら、この言葉はこのまま原案にしてもよいと考えるがいかがか。特にご意見がなければ、原案としてこの話で進めていただきたい。もう少し気の利いた、コピーライティングとして良い言い方があれば教えていただきたいが、この付記された言葉遣いによって、前回の総合計画で少し掲げすぎていて遠い看板のように見えてしまっていたスローガンが、実態のあるものになっていくということでの加筆であればとてもよいと思うので、皆さんのご理解とご共感をいただいた上で使っていければと思っていた。

（委員）

スローガンの部分について、「市民がつくる　暮らしたい栗原」と「あふれる笑顔　つなげる未来」を見ていくと、「未来へつなぐ」という言葉は中で使われているのは分かるが、「あふれる笑顔」は使われていない。私はこのスローガンが好きだが、イメージしながら読む感じにする内容なのか、それとも言葉として施策の中に表現されるべきなのか、どちらなのか迷っているところである。

なぜ「あふれる笑顔　つなげる未来」が来たのか、その意味をどこかに示した方が、読む人がそれをイメージして読めるのではないか。その言葉が出てきたときに「あ、これって未来につなげなきゃいけないのかな」とイメージできるような感じになっているとよいのではないか。どういう意図でそう読ませるのかを考慮していただいて、そうした書き方

ができればよいと感じたので、意見として述べさせていただく。

（議長）

私もこういうスローガンは、文脈にない言葉が出てくると「うっ」となる時があると思う。これまでは、こういう文書が工夫されて「ここをご覧ください」と見ていただくフェーズのものだと思うが、今後これを何かのメディアの形にして市内外の皆さんに共感いただくような方法を開発するときに、「あふれる笑顔 つなげる未来」を掲げてバルーンを上げ、吸引力・マグネットになるものにしていくという広報的な戦略の中で使うことはあり得る。そのために、何もないところから突然バルーンが上がっても心細いので、今回計画の中で上がってきたものを将来的に使っていきましょうということでもあるのではないか、それが皆さんの共感の要因になるとすれば、引き出しとしては面白い。

その辺り、今のご意見も踏まえて、今後のこの言葉遣いの扱い方を精密に考慮いただければ、この話題はより皆さんから愛されるようになると思うので、本日の議論も踏まえて展開していただきたい。

［2 基本構想 ②将来像］

（委員）

資料１４ページの将来像Ⅳ「地域の特性を生かした、産業や交流が盛んなまち」という項目の中の３行目、「基幹産業である農業では、担い手の確保・育成と生産基盤の強化を図り付加価値の高い栗原産品を生み出すことで、その魅力を広く発信します」とあるが、現場ではすでに就農人口が加速度的に減っていくことが目に見えて分かっている。この計画は令和１８年度までであり、おそらく今の就農人口より半分ぐらいになっているのは確実である。その辺の緊急性というか、一言文言を入れていただくと比較的分かりやすいかと思うが、その辺はいかがか。

（事務局）

「基幹産業である農業では」の部分は、将来像の基本的な考え方といったものになる。後にそれぞれの方針が出てきて、そちらにはもう少し踏み込んだ書きぶりになっている。ただ、喫緊の課題や就農人口の危機的な状況といったことは、計画であるので、将来的にいい方向に向かおうという言葉の方が夢を描けるため、ここではあえて申し上げていなかった。

今回は基本構想としてお諮りするが、次に皆さんに協議いただきたいのが基本計画であり、具体的な個別の事業の中で、新規就農者の人数に

ついて「現在何人を、将来何人にします」といった成果指標として目標値を定めるときに、そのような書きぶりが可能になってくると思う。ご意見としては賜りたいが、ここにあえて危機的な状況といったところを書くのは難しいと、今のところ考えている。

（委員）

承知した。

（事務局）

基本構想内ではそういった緊急的・マイナス的な表現が難しい部分はあるが、今後協議いただく次の基本計画の段階では、現在の課題だったり問題点だったりという整理もする。その際に「緊急的に担い手不足が課題として挙げられている」というような表現で整理できるのかなと考えているので、ご理解いただきたい。

（議長）

今のお話はとても重要なことである。今回は基本構想の案なので、まず現状を見届ける・見据えるということがあり、それに対してまず構えるというのがまさに構想である。人口減少は構える以前に現実なので、それを前提とした議論をしている。

また、農業に関しても従事者が減っていくことが見えていることに対して、人口減少と同様に危機的なものだというレベルで議論して構想にするかどうかは議論されるべきである。

一方で、後の計画から検証に進んでいくときに、計画の中でそれがきちんと手に取れる形で落とし込まれているかを確認する段階が生じてくるので、その時に、その計画が実現可能性のあるものかどうかを審議会等できちんと見届けていくステージが必要である。そこで見落としをしてしまって、構想の時に「ありそうだけど見なかったことにする」ことになり、本当に光が当たらず計画から漏れると、まさにそういった危機が現実になるので、そこでの時間の当て方をまた設計していければよい。

そのためのベースの構想として皆様にお諮りした上で見届けていただくことが大事であり、その時に計画等に織り込まれるかどうかについて厳しく見ていただきたい。

［③基本方針と施策］

（委員）

資料１５ページの「安全・安心なまちづくりの推進」という項目だが、第２次の時には「大規模自然災害に強い地域づくりを目指す」としていたのが、今回の第３次では「災害に強い地域づくりを推進します」となっている。これはトーンダウンしたように見える。現在、毎日のように大地震とか大雨とか、ニュースにならない日がないくらい溢れているが、これからはそういう心配はしないというふうに、「大規模」という言葉を取っているのか。

（事務局）

委員ご指摘のとおり、現在、大雨や地震による大規模な災害が相次いでいる状況が続いている。それを踏まえまして、あえて「大規模自然災害」ではなく、災害の大小にかかわらず、地域づくりを推進しながら災害を乗り切る強い地域を目指したいということで、「大規模」という文言を削除しているところである。

（議長）

従来、行政の所管は「大規模」で、近所では対応できないことにも介入するようなことが前提にあったし、多分それは変わらないと思う。ただ、大きいのか小さいのかに関わらず、いわゆる様々な緊急状態に対してそれに応じた対策・対応を速やかに、しなやかにできる自治体が求められているのは確かである。

そのことを単に行政の仕事として捉えるだけではなく、先ほど「近所」という言葉があったが、これも非常に重要な言葉であり、小集団から大集団まで連続的にそういうことに対処・対応できるような体制をどう設計するかは、行政だけの問題ではなく、市民レベルでそういった構えを組み立てていくことをどう設計するかということだと思う。それに取り組むことを市として先に声を上げるということがまずは重要である。つまり、声を上げることによって「あとは行政が助けてね」ではなく、行政にやれることと、我々がローカルでやれることの連続性をどう作っていくのかということである。特に最近の熊本の地震と千葉の水害を見ていると、行政がやりきれないところを民間や個人の集団が手を貸して対応しており、身動きが取れない状況をブレークスルーするための情報提供やインフラをつくることが行政の仕事でもあるし、各論で行動できるようにすることに対して、個人が「そうだったらそうしましょう」と腹を括るというのも、人口が少なくなりインフラも弱体化していく中では重要な市民活動としての構えである。

今のご質問・ご指摘の「大規模」なのかどうかということは、その前

提があったときには「大規模」という定義は不要であるが、不要となることの前提となっている理解をどう浸透させていくかが大切である。そこを今後、構想から計画、その後の対応に向かっていくときに、連続性を担保した説明になるように心がけていただきたい。今のように言葉遣いから端を発して議論が進まないと、やはり断絶が起きてしまうので、そこはぜひご注意いただきたい。

（委員）

資料１６ページの方針３「市民が安心して暮らせるための地域医療を守ります」というところで、従来の部分は３つ項目があって、「地域医療を支える人材の確保と育成」という部分が消えている。２つになったのは不安に感じるので、理由をお願いしたい。

（事務局）

第２次後期の部分は「市立病院の機能維持」、それから「地域医療を支える人材の確保と育成」ということで、「地域医療を支える」となると、市立病院だけではなくて民間の医療機関の人材育成も図るという計画になっていた。実際、医師招へいや看護師の奨学金制度などもあるが、その辺の位置づけをはっきりした方がいいのではないかということで、今回はそれも含めて人材確保と育成ということも①の「市立病院の持続可能な運営体制」の中にすべて包含した形にし、市内の医療機関との連携を②の中で図っていくということである。

例えば１次医療・２次医療といった役割分担の中で連携をしながらやっていこうというところで、今回、この方針３については３つから２つの項目に整理させていただいた。

（議長）

確かに「人材の確保」という文言が抜けていると、人材は確保できないのではないかと思ってしまうかもしれない。ご指摘のとおり、「持続可能な運営体制」ということにそこが組み込まれていると理解するのは少しハードルが高いような気もする。

一方で、人材を確保することが目標になってしまうと、今の医療業界を見るとそれも大変なことだと思うので、むしろ市民の医療環境をどうやって担保できるかということに対して、人材の確保も一つであり、人がいなくなった時でも生命の危険から回避できるような仕組みづくりを発明的に考えていくことも一つである。その点、「持続可能な運営体制」に包含されているのであれば、そのことをきちんとお伝えして共感

していただけるような手段があった方がよいかもしれない。命をないがしろにするのではなく、あらゆる手を使って市民の生命を守っていこうということに対して、この部分できちんと訴えていくのだという説明が及ぶような場面が生まれてくることが重要かと思う。

（事務局）

今のご意見を伺い、「持続可能な」というところで、これまで庁内の会議の中では包含させていたという整理であったが、ご指摘があったように「不安に感じる」というところ、また「持続可能な」というところで全て包含させてしまうことのハードルの高さというところは、一旦整理させていただきたい。

（委員）

資料１４ページの「地域の特性を生かした、産業や交流が盛んなまち」という部分の中で、最後に「東日本大震災に起因して」というのがある。これは地域の特性なのか。放射性物質があるという、この文言は別なところで使うべきで、ここには必要がないのではないかと思われる。

（事務局）

将来像Ⅳについては「地域の特性を生かした、産業や交流が盛んなまち」ということで整理しているが、放射線の対応を将来像Ⅳの中に位置付けた理由については、資料１７ページの将来像Ⅳ方針１「持続可能な農林業の育成と付加価値の高い栗原産品の創出に取り組みます」という方針の中の④で、「放射線量等の測定、監視、結果の公表を継続し、生活環境の安全安心を確保しながら、放射性物質の確実な処理、農林畜産物の安全確保と風評被害の払拭による流通・消費の拡大」という施策で整理をしている。農林畜産物の安全確保と放射性物質への対応を合わせた形での施策、同じ項目での整理としたところである。したがって、将来像でいう部分の「地域の特性」ではなく、産業という部分に紐づけた形での整理としている。

併せて、この基本構想の中にはないが、第２次後期では「放射能対策プロジェクト」を別建てで作っていた。東日本大震災からもう年数が経っており、汚染牧草の処分が残った課題ということになる。そうなると、将来像Ⅳは「地域の特性を生かした、産業や交流が盛んなまちをつくるために」という将来像ではあるが、中身としては農業、商工業、それから観光といったところの位置づけになるので、今回はそこに入れさせていただいた。そもそも地域の特性ではないので、その対策を通常の事業

としてこのことを行いますということで、ここに位置づけさせていただいたところである。

（委員）
対策を早急にしていただければ結構である。

（議長）
事実上、計画レベルでは市としてまだ除染や牧草等の処理といった残された課題があるということである。それを計画に残しておくためには、前提となる構想の中でそれが残置されていることを踏まえた話題にしておかないと、計画の中で突発的に「そういった処理が残っています」という話になってしまい、少し心もとない。

一方で、ご指摘のあった「地域の特性」なのかと言われると、確かに１５年前の事故からはこの流域の風評被害が特性下にあったわけで、それに対する記憶や理解が薄まっているのは現実かもしれないが、やはり基本的な原因が未だに残されていることを考えるときに、それに対処するということを前提にした行政の構えとして、それがあることを構想の中で記しておく必要はあると思った。

ご指摘の部分については、委員も「対策を」ということだったので、再び同じことが起きないように、文言の整理等をこれからの計画の中できちんとしていただければよい。「いまだにその話をするのか」と短絡的に声を上げられる方も出てくる可能性はあると思うので、その方々のご理解にもちゃんと及ぶように、文言の整理をしていただきたい。

（議長）
今回、「方針と施策」という項目立てがされていて、新たに方針のところが赤く文言が追加され箇条書きになっているが、その後の施策の部分は、この文章の中では項目立てはされていなくてよいのか。

（事務局）
例えば方針１の下に丸で表示されている部分が施策の部分になり、その施策に対する具体的な取り組みや成果指標などについては、今度の基本計画の方で議論していただく。

（議長）
この「方針」というのを入れることが、施策との対応になっていない

気がする。「項目」と「方針」と「施策」という形で、太字の「１」が方針、「①」が施策だという関係に組み立てられるとするならば、この太字の「方針」という文字はちょっと頭が重い気がする。もちろん表記の問題だが、「施策はどこにあるのか」ということになったときに、別項目で施策があるかのように読めてしまう気がしたので、この表現の整理はした方がよい。

細かいことだが、残るとそれが方針ではないのかというふうに読めてしまう気がする。①②等が施策であるという説明は今のところされていないので、記述の方法として検討願いたい。太字になって目立つので気になった。

（事務局）

表記については整理・検討する。

（委員）

資料１３ページ将来像Ⅰ「恵まれた自然に包まれた、質の高い暮らしのまち」のところに「中核機能地域」というワードが出てくると思うが、こちらについて、今回もう少し噛み砕いた何か別資料の添付などは想定しているか。

（事務局）

特に「中核機能地域」の説明は今のところ表記している部分がなかったので、注記で説明をつけさせていただければと思う。

（委員）

急に言葉が出てくるが、第２次の時の資料を見ると細かい説明がすぐ出てくる。ここにポンと出てくると、全体的にその周辺とか領域をフォローアップする施策をするのと、その中核機能を形成・推進するというのが、ちょっと対立というか、それが共存できるのかというニュアンスを感じてしまったので、この中核機能地域に関してもう少しフォローがあると、読む方がかなり分かりやすいと思う。

（議長）

確かに、ちょっと耳慣れない、知っている人はよく知っているのだろうが、広く多くの方々にとにかく読んでいただきたいという趣旨のときに、くどくどと注釈をつけるのはどうかとも思うが、耳慣れないことでクエスチョンマークがついてしまうと、そこから読みが進まなくなって

しまうので、その辺りの配慮としては必要である。
前期の時は「田園都市」などに注釈が入っていたので、丁寧といえば丁寧だが、それが多すぎても、情報の粒度が変わると、文章は飲み込みが難しいこともあるので、その辺を上手に作文していただきたい。

（委員）
資料１７ページの方針２の①と方針３の①だが、「何々を支援するとともに」「支援し、何々に取り組み」というふうに並列で載っているが、これはどうして変えたのか。上の部分だと「市内での創業・起業を支援し、既存企業の経営安定化と雇用機会の創出に取り組みます」となっており、どう読むのかさっぱり理解できなくなってしまっている。

（事務局）
ここについては、単純に文書量を減らしたいという思いで修正をしたところである。委員ご指摘のとおり、前段をきちんと表現した方が分かりやすいというところがあるので、戻す形で調整したい。

［④土地利用構想］
（議長）
著しい変化がないことは、「変わりがない」というと安心もするが「発展もないのか」と思う方もいらっしゃるかもしれない。おそらく、第２次の時の文言の精度がそれなりに高かったのだと思う。その上で、それを引き続き第３次の中でも引き継ぐことによって、それを推進していくということの表れだと理解することができると思っている。
一方で、この土地利用に関する様々な行動は、特に栗原は広大な地域を有しているので、かなり各論部分で様々なことが顕在化してくるのだと思う。そこにきちんと眼差しを向けて、具体的な方策をとれるような行動規範の原点となるような土地利用構想となっていることが大事であるため、あまり緩みなく、あまりうろうろしないということは大事である。その点、今後の具体的な方針・方策・計画の中で、第３次の行動規範になればと思って聞いた。

［全体を通して］
（委員）
基本計画に盛り込まれていたら申し訳ないが、鳥獣被害対策が一切ない。その辺はどのような考えか。基本計画に入っていたら、それはそれで構わない。

（事務局）
　現在検討中であるが、基本計画の中で鳥獣対策については盛り込んでいく予定である。

（議長）
　考え方としては、そういった事象を今回の基本構想の中でどの記述に含まれているという理解か。

（事務局）
　基本構想の中の将来像Ⅳ方針１の②「効率的で安定した農林業経営の実現に向け、生産基盤の整備と農地や森林などの地域資源の維持・強化を図ります」というところに紐付けた形で、基本計画ではツキノワグマやイノシシの対応を検討しているところである。

（議長）
　その話は最近目につくので、そういうことが話題に上がりやすいということは意識をした方がよい。

（委員）
　資料９ページの「新型コロナウイルス感染症への対応」が削除という説明だったが、ニュースを見ていると、世界のどこかで発生したけれども大したことはなかった、といったものがたまに流れてくる。以前は船の中で隔離して、そこで処理が終わったという話も出てきた。必ずというか、いつもまだどこかで感染症対策のようなものが迫られるような気もする。
　したがって、これを削除しないで、例えば「感染症対策について」ということで、第２次の中の一番最後の３行ほどに「感染症への対策と経済活性化の両方の支援を取り入れつつ、消費者のニーズに応じた取り組みを進めていきます」とあるので、これらを有効に利用して、新しい感染症にも手を抜かないで目配りをするという項目があってもよろしかったのではないかと思うので、ご検討をお願いしたい。

（事務局）
　こちらにつきましては、将来像Ⅲの中で基本計画において整理するというところで、今検討しているところである。

（議長）

おそらく、第２次の時のコロナウイルス感染症への対応の項目は、当時の情勢としてはマスク等の対応も含めて行政としてはマストであり、そうした事実を提示した上で対策をするための方法を謳う必要があったというのは事実である。

一方で、その感染症がなくならないことも現実であり、そのことが忘れられて埋没したり、見失ってしまわないように、第３次の中できちんと言い当てることができるような作文の方法については、何らかの検討があってもいいのかと思った。

当時のものをまた別途貼るというわけではないと思うので、目の前に起きている様々な危機的な状態に対して、行政としてやること、また我々個人としてすることについて、説得力のある行動になるようなことが分かるように示していくことだと思う。その点、必要があれば検討いただいて、また次の案出しの時に反映されたものをご提示いただければよろしいのではないか。

（議長）

本日初めて見ていただいたとはいえ、説明も適切だったと思うので、一通り委員さんからはある程度の反映をしていただけるようなご意見があったと思って聞いていた。もちろん、まだ持ち帰ってみたときに「これはどうなのか」ということがあるかと思うので、それも様々なご意見等は事務局の方でお引き受けいただいて、適切に今後の反映等をご検討いただきたい。

（事務局）

配布した資料２は、今ご審議いただいた資料１の比較表の左側（変更後の構想案）の赤字部分を黒にして、完成版をイメージした資料である。このことから、今いろいろご審議いただいた内容を修正する場合は、こちらにも同じように修正させていただく。

詳細説明は先ほど共有いただいた内容と変わりないので、省略させていただく。

４　その他

今後のスケジュールについて

（事務局）

次回審議会は１１月開催予定。

５　閉会　栗原市総合計画審議会 副会長

公開会議ということで、傍聴の方にも長時間おいでいただき大変ありがとうございました。もう少し多くなるかなという感じもしていたが、おかげさまで、本日、第３次総合計画の素案をご提案申し上げ、２時間にわたりご議論をいただいた。

これから、本日お話しいただいたことを踏まえ、基本計画の検討を進めていくことになり、そうなってくるとさらに皆さん方のご意見が必要になる。基本計画の段階に入りましたら、ぜひ委員の意見をまとめて、さらなる地域発展のためにご尽力いただきたい。

（午後３時３０分）